

再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担 当 課：都市地域整備局街路課
担当課長名：松谷 春敏

事業名 じえいあーるさんようほんせんとう（かがわし） J R 山陽本線等（加古川市）	事業区分 街 路 連続立体	事業主体 兵庫県
起終点 自：兵庫県加古川市野口町 至：兵庫県加古川市加古川町		延長 3.3 km
事業概要 ：本事業は加古川駅付近の山陽本線、加古川線を連続的に高架化することにより、12箇所の踏切を除却し、市街地の交通円滑化と市街地分断の解消等を図るものである。また、本事業により発生する車両基地跡地を活用した面的整備事業等と一体となって、中心市街地の活性化を促進する。		
昭和59年度事業化	平成2年度都市計画決定	平成4年度用地着手
H9年度工事着手		H9年度工事着手
全体事業費	285億円	事業進捗率 98% 供用済延長 3.3 km
費用便益分析結果	B / C (事業全体) 2.6	総費用 (事業全体) 321.6億円 (事業費：321.3億円 維持管理費：0.3億円)
総便益 (事業全体) 827.9億円 (走行時間短縮便益：716.0億円 走行費用減少便益：18.2億円 踏切事故減少便益：2.1億円 高架下利用便益：91.6億円)		基準年 平成16年
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（踏切遮断交通量10,000台時/日以上踏切の除却） ・個性ある地域の形成（鉄道や河川等により一体的発展が阻害されている地区を解消） ・都市の再生（市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携） 等		
関係する地方公共団体等の意見 加古川市長、同議会議員、地元商工会、自治会及び経済界等で構成する「加古川市鉄道高架事業促進期成同盟会」により早期整備の要望。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 中心市街地の活性化に関する関心が高まっており、連立事業の早期完成が求められている。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成15年5月に山陽本線を、また、平成16年12月に加古川線を高架切替した。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 仮線の撤去及び交差道路、側道を整備し、当初予定通り平成17年度に事業完了予定である。		
施設の構造や工法の変更等 特になし。		
対応方針		事業継続
対応方針決定の理由 平成17年度に事業完了する予定であり、早期整備完了をする必要がある。		
事業概要図 		

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。